

私見 Tuesday 創見

熊本で地震が起きた。甚大な被害が発生し、多くの犠牲者が出た。お悔やみ申し上げる。余震は今なお続き、被災地の方々は昼も夜も休む暇も

は10³。直下型地震である。最大震度は7を観測した。そして16日午前1時25分ごろの本震ではまた最大震度7を記録した。Mは7・3。1995年の兵庫県南部地震と同じ規模である。

この機会に地震について再考したい。

ないことだろう。本当にお見舞い申し上げたい。
14日午後9時26分ごろに起きた前震のマグニチュード(M)は6・5。震源の深さ

熊本地震

憂い残るが備えせよ

熊本地震は活断層の活動による横ずれ断層型であり、2011年の東北地方太平洋沖地震のようなプレートの境界で発生する海溝型地震とは異なる。エネルギーは東北地方

太平洋沖地震(M9.0)の数百分の1であるが、直下型で震源の深さが浅いので大きな被害をもたらす可能性が高い。海溝型地震や断層型地震について地震発生確率値を含む長期評価結果を公表している(算定基準日16年1月1日)。

地震がほぼ定期的に繰り返すという仮定のもとに、大きな被害をもたらす可能性が高い。海溝型地震や断層型地震について地震発生確率値を含む長期評価結果を公表している(算定基準日16年1月1日)。

東北地方太平洋沖地震の発生直前における確率は10年以内で4〜6%、30年以内で10〜20%、50年以内で20〜30%と低かった。M7以上の地震はもちろん、M8以上の地震もいつ起きてもおかしくない状況にある。例えば気象庁のホームページを見て、地震が起きたらどのような行動を取れば良いか確認しておこう。

三浦 和彦

東京理科大学教授



みうら・かずひこ
1955年八戸市生まれ。東京理科大学大学院修士課程修了。認定NPO法人富士山測候所を活用する会事務局長。今年1月から八戸特派大使。東京在住。

三陸沖北部では繰り返し発生する地震以外に、M7・1以上の地震が1885年から約127年間に9回発生している。M7・1〜7・6の

三陸沖北部では繰り返し発生する地震以外に、M7・1以上の地震が1885年から約127年間に9回発生している。M7・1〜7・6の

また日頃から、住宅・建造物の耐震化、家具などの転倒・移動防止、備品の落下防止、窓ガラスなどの飛散防止など、地震に備えよう。